探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：海田西中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
海田小学校	15	402
海田西小学校	9	205
海田西中学校	9	226

（R5.12.1現在で記入）

1　研究の概要

（1）研究テーマ及び研究のねらい

主体的に学びを深める児童・生徒の育成
～探究的な学習の単元開発・実践・改善を通して～

児童・生徒の実態を踏まえ、主に次の２点をねらいとした。

① 昨年度までの、ＰＢＬ（プロジェクト型学習）の考え方を基に、探究的な学習の単元の開発・改善を行い、主体的に学びを深める児童・生徒を育成する。

② 探究的な学習を通して、学習内容を自分事として捉え、自己変容を自覚する振り返りのできる児童・生徒を育成する。

（2）資質・能力の設定について

本中学校区で育成を目指す資質・能力は、主体性、コミュニケーション力、メタ認知である。（図１）これは、総合的な学習の時間の目標に示している資質・能力「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成をより確かなものにすると考えた。

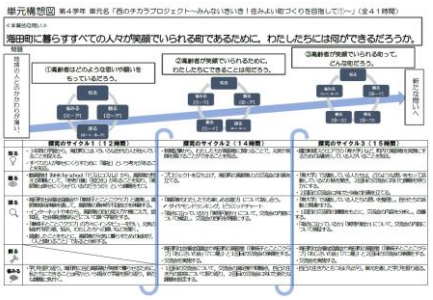
【図１：本中学校区の資質・能力】

また、探究的な学習を通して、３つの柱と資質・能力は互いに影響を与え合い、単元を深めることで、相乗効果が生まれ、１つ１つがより大きな円となり、資質・能力が高まっていくと考えた。

（3）取組について

本中学校区では、探究的な学習のプロセスを以下のように設定し、児童生徒の学びの文脈を意識しながら取り組むようにしている。

・知　る：フィールドワーク、事象との出会い
・観　る：単元の見通し、計画
・探　る：体験活動、情報収集、情報の整理・分析
・創　る：創作、発信、実践等、実社会・実生活との関連
・省みる：振り返り、新たな課題への接続



【図２】：単元構想図

上記のプロセスにおいて、今年度は、探究的な学習を通して自己の変容や学びのよさ、見方・考え方の広がりや深まりに気付くことを通して、次の探究のサイクルへ児童生徒が学習をつないでいくことができるように単元の改善及び実践を行った。具体的な取組は、以下の二つである。

① 児童生徒を主語にした単元構造図（図２）の改善。
② 学習や資質・能力に対する振り返り。

2　実践事例

（1）授業実践例

①学校・学年　海田西小学校・第４学年
②単　元　名　西のチカラプロジェクト
～みんないきいき！住みよい町づくりを目指して①～
③本質的な問いと単元を貫く問い

海田町に暮らす全ての人々が笑顔でいられる町であるために、わたしたちには何ができるだろう。

探究のサイクル１
「高齢者はどのような思いや願いをもっているだろう」
探究のサイクル２
「高齢者が笑顔でいられるために、わたしたちにできることは何だろう」
探究のサイクル３
「高齢者が笑顔でいられる町って、どんな町だろう」

④探究のサイクル２における単元の展開

	学習内容	児童の実態の実際
探究のサイクル１からの接続	高齢者が「人との関わり」が元気の源であることから、自分たちが関わることで元気にすることができないかという課題を設定する。	・高齢者の苦労が分かったね。 ・人と関わることが元気の秘訣だと教えてくれたよ。 ・わたしたちが元気にしてあげたいなあ。
知る	新聞記事から、わたしたちが高齢者に関わることで、元気や笑顔を届けることができることに気付く。	・町の高齢者といっしょに遊んで元気や笑顔を届けたい。 ・交流会を開いてみたらどうだろう。
観る	実現（解決）していくための見通しをもたせ、指導者と共に学習計画を立てる。	・高齢者もそうだけど、ぼくたちも楽しめる交流会にしたいね。 ・どんな遊びにするとよいかなあ。
探る	・「高齢者もわたしたちも楽しめる遊び」について話し合う。 ・視点に基づき交流会の内容を検証し、交流会の目的を明確にする。	・視点を基に出した遊びを整理してみよう。 ・ピラミッドチャートが使えそうだね。 ・視点に沿った内容になっているか、確かめよう。
創る	・交流会の準備をする。 ・海田町社会福祉協議会や海田町の高齢者を招いて交流会を実施する。	・高齢者の方々が楽しんでいたね。わたしも嬉しくなったよ。 ・高齢者の方々の感想を知りたいなあ。
省みる	交流会について、交流会の満足度や問題点、高齢者福祉の見方・考え方の変容について振り返り、２回目の交流会に向けた新たな課題を設定する。	・自分たちと捉え方に違いがあったね。 ・コミュニケーションが新たな視点になりそうだ。 ・高齢者の思いも大事にしてもっと良い交流会にしたいなあ。

【表１：探究のサイクル２での学習内容と児童の思考の実際】

（２）主体的に学びを深める手立て

探究のサイクル２・３において、効果的であった手立てを次のように考える。

① 課題設定の仕方
- 連続性のある課題の設定
- 海田町福祉協議会や地域の高齢者との連携や新聞記事を活用し、実生活・実社会とのリアルなつながりを意識させる場の設定。
- 自分たちで決めた課題解決の見通し→単元計画の共有

② 協働の場づくり
- 思考ツールを活用した思考の視覚化。
- 地域の高齢者との交流会の実現。

③ 振り返りの方法
- 交流会に参加した高齢者からのフィードバック。
- 学習に応じた視点の設定
- 単元計画に沿った振り返りシートの工夫
  →ゴールへの見通し
- 高齢者の考え方の共通点や相違点への着目させる問い
  ―課題の更新につながる教師によるファシリテート

（３）探究のサイクル２・３の具体的な取組及び効果

４年生の総合的な学習の時間の内容を改善するうえで、児童や地域の実態から探究課題を「防災」から「福祉」に変更した。その際、「本物」と繋がり、見方・考え方の広がりや深まりに資することを期待し、取組を進めた。具体的な取組と効果は次の２点である。

① 交流会の内容の整理・分析

探究のサイクル１で得た知識を基に、自分たちで視点（高齢者も自分たちも楽しめる遊び）を決めて交流会の計画を立てた。まず、どのような遊びがあるかをブレーンストーミングし、視点に沿って整理していった。「自分たちでやっている」という実感があるからこそ、どのように整理していくかも児童が自分たちで考え、ピラミッドチャートを使って整理した。「自分たちでやってみたい」という児童の思いを大切にしながら、目指すゴールを共有することで、主体的な学びに繋がった。

② 振り返りシートの工夫

【図３】：振り返りシート

活動ごとの振り返りや交流会前後の高齢者に対する自分の考えを書けるようにすることで、学びの現在地を確かめたり、探究課題に対する見方・考え方の変容に気付いたりできるように工夫をした。また、学習内容に応じた視点を与えることで、児童の思いが具体的となり、児童の思いを大切にしながら次の授業の指導へ生かすことができた。その結果、児童の言葉で授業がつながっていくサイクルが生み出されている。

③ ２回実施した交流会

探究のサイクル２で児童は自分たちで考えた視点で交流会の内容を決め、準備を進めた。しかし、高齢者の思いが十分に反映されないのではないかと懸念された。そこで、探究のサイクル２の振り返りで、交流会後のアンケートから高齢者の思いを知り、自分たちの思いとの共通点や相違点を比較することで、新たな視点を見付けることができた。自分たちでやってきた実感があるからこそ、児童からは「もう一度交流会をしたい」「今度は高齢者の思いを新しい視点に加えて準備をしたい」など、主体的にサイクルをつなごうとする姿がみられた。探究のサイクル３の交流会は、高齢者に寄り添った内容であったという評価を多くいただくことができた。

【図４】：交流会の様子（探究のサイクル３）

【個に応じた指導の充実】

児童の振り返りから授業をつなげていくことで、児童一人一人のよさを生かし、自己実現を図ることで、探究課題を自分事と捉え、主体的に学習を深める児童の育成につながった。

３　研究の成果と課題等

（１）成果

- 自分の考えを積極的に伝える児童・生徒が増加した（表２②）。振り返りを通して、課題に対する自分の考えを整理することで、自分の考えを語れる基盤が整った。
- 振り返りにおいて、自分自身の変化に気付いたり、新たな課題について考えたりする児童・生徒が増えてきた（表２③）。視点を基に振り返ることで、自己変容を自覚し、探究的な学習のよさに気付くことができた。

（２）課題

- 主体的に学びを深める児童・生徒の割合が減少した（表２①）。これまでに開発してきた単元が、児童・生徒の姿をイメージして構想されたものかどうか、また探究課題や本質的な問いが児童・生徒の思いに沿うものになっているか、さらに学びの現在地を確かめながら探究のサイクルを意識できたかを検証することに課題がある。

①授業では、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなど、主体的に学習に取り組んでいる。			
	海田西中	海田小	海田西小
Ｒ３（１月）	88.1	89.1	93.3
Ｒ４（１月）	94.1	90.0	93.5
Ｒ５（１月）	86.8	79.4	87.0
②授業では、自分の考えを積極的に伝えている。			
	海田西中	海田小	海田西小
Ｒ３（１月）	76.7	51.7	58.2
Ｒ４（１月）	76.1	45.0	67.8
Ｒ５（１月）	66.3	65.5	87.0
③振り返りでは、学習を通しての自分自身の変化に気付いたり、新たな課題を見つけたりすることができた。			
	海田西中	海田小	海田西小
Ｒ５（６月）	79.5	70.3	69.3
Ｒ５（１月）	80.0	77.1	75.7

【表２：資質・能力に関するアンケート結果】

（３）今後の改善方策等

- 振り返りについて、一定の効果はみられるが、他の資質・能力を比較して低い現状がある。振り返りの視点を見直したり、資質・能力を児童・生徒と学年時大意に応じた共有をしたりすることで、継続的に取り組んでいく必要がある。
- これまでに開発してきた単元が、児童・生徒の姿をイメージして構想されたものかどうか、また探究課題や本質的な問いが児童・生徒の思いに沿うものになっているか、さらに学びの現在地を確かめながら探究のサイクルを意識できたかを検証し、単元のさらなるブラッシュアップを図っていく。